様式第３号

令和６年度　学校経営報告書（自己評価）

学校番号	16	学 校 名	静岡県立中央特別支援学校	校 長 名	高橋　和彦

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
安全部	児童生徒の命と人権を守る取組の推進（キラリ＆ホット視点の浸透）	キラリ＆ホットの視点を意識して全ての人権を尊重した言動を行うことができた教員 100%	キラリ＆ホットの視点を意識して全ての人権を尊重した言動を行うことができた教員 97.9%	A	キラリ＆ホットの発信や定期的な人権感覚の自己チェックによる効果が達成状況の高さにつながった。
	災害時、非常時における判断力、行動力、連携の向上につながる訓練・研修・振り返りの充実	自らの立場や役割の中で、あり得るリスクとリスク回避の行動を考えることができたと答える職員 90%	自らの立場や役割の中で、あり得るリスクとリスク回避の行動を考えることができたと答える職員 98.3%	A	実践的な研修や、短時間での実地訓練の複数回実施により、自らの行動をイメージして訓練を実施する教職員が増えた。
	安全で健康的な生活を送るための環境の充実	安全で健康的な生活を送るための環境づくりができた職員 90%以上	安全で健康的な生活を送るための環境づくりができた職員 99.9%	A	養護教諭による保健指導をとおして自身の健康や衛生を見直し、行動に移す生徒の姿がみられた。
	安心安全な医療的ケア実施体制づくり	教員、保護者、医療的ケア看護職員が、円滑な連携をして医療的ケアを実施することができた職員 100%	教員、保護者、医療的ケア看護職員が、円滑な連携をして医療的ケアを実施することができた職員 94.3%	A	円滑な連携体制が構築されてきている。来年度は直接的に医療的ケアを担当しない教職員への関心度向上に向けた情報発信にも取り組む。
	将来の豊かな生活に向けた食育の推進	「食に関する指導の全体計画」に基づいた年間指導計画に沿って食に関する指導を実施し、児童生徒の食への興味関心を広げることができた職員 90%以上	「食に関する指導の全体計画」に基づいた年間指導計画に沿って食に関する指導を実施し、児童生徒の食への興味関心を広げることができた職員 93.1%	A	掲示板の活用や、児童生徒が情報発信する昼の放送を継続する。来年度は、食育の視点を反映させた年間指導計画の作成・実施促進にも取り組む。
	児童生徒の実態に合った、安全で生活しやすい環境づくり	児童生徒の実態に合った生活しやすい教室環境について、意見交換をして改善することができた職員 90%以上	児童生徒の実態に合った生活しやすい教室環境について、意見交換をして改善することができた職員 95.2%	A	掲示板等を活用した情報提供・共有を継続しつつ、他分掌と連携し、多面的な視点での情報発信に取り組む。

様式第３号

	心理的安全性が感じられる学部、パート、寄宿舎の環境づくり	職員間の意見交換や保護者対応の場面で、傾聴や共感の姿勢を持った言動ができた職員 90%以上	職員間の意見交換や保護者対応の場面で、傾聴や共感の姿勢を持った言動ができた職員 92%	A	会議等で積極的に意見交換の時間を取り入れたことで、考えを伝え合う場面が増えた。来年度も同様の取組を継続する。
		毎週の教材研究日を有効に活用できた職員 90%以上	毎週の教材研究日を有効に活用できた職員 92%	A	会議一覧や、校内研修の情報整理を継続し、授業や指導支援に関する話し合いの時間を確保していく。
指導部	児童生徒の実態に応じた教育活動の計画、実践の推進	目標と評価の一体化を理解して、日々の教育活動を行えていると実感している教員 70%以上	目標と評価の一体化を理解して、日々の教育活動を行えていると実感している教員 99.1%	A	幾つもの分掌が連携し、話し合いや情報共有の時間を設けたことで高い達成率につながった。
	進路指導の視点を生かした日々の指導や支援の充実	進路指導の視点をもって個別の指導計画の作成・見直しや授業づくりができた職員 90%以上	進路指導の視点をもって個別の指導計画の作成・見直しや授業づくりができた職員 97.2%	A	学年やグループ単位での取組、通信や進路コーナーの活用により、進路指導の視点を意識した実践が増えた。
	生涯スポーツにつながる教育活動の充実	児童生徒が生涯にわたってスポーツに親しむ姿を目指して「する・見る・支える・知る」の視点で指導ができた職員 90%以上	児童生徒が生涯にわたってスポーツに親しむ姿を目指して「する・見る・支える・知る」の視点で指導ができた職員 93.8%	A	スポーツへの興味関心や意欲を高めるための取組が増えた。来年度は、校内外の充実した実践紹介等を行い、実践の幅を広げるよう取り組む。
	児童生徒が力を最大限に発揮できるための授業における ICT 活用の試みの推進	指導においてタブレット端末、入出力支援機器の活用を実施できた職員 70%以上	指導においてタブレット端末、入出力支援機器の活用を実施できた職員　95.8%	A	ICT 機器活用への意識が高まった。来年度は授業への活用を促進する情報発信や研修に取り組む。
	卒業後の「豊かな生活」を見据えた目標設定と、個々の実態に応じた根拠ある自立活動の指導の充実	自立活動の指導に関して、根拠を持って指導することができた職員 80%以上	自立活動の指導に関して、根拠を持って指導することができた職員 90.8%	A	専門家による学習会等の効果がみられた。来年度は学習会での学びを授業に生かす取組を行う。
	「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を明確にした授業づくり、生活指導	取組目標にある３つの姿を明確にして授業づくりをした職員 90%以上	取組目標にある３つの姿を明確にして授業づくりをした職員 97.8%	A	個別最適な学びに関する意識が高まった。来年度は個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現できる授業づくりについて、教員間で語り合う場面を積極的に取り入れる。

様式第３号

連携部	**地域や社会とつながり合う授業実践の成果の共有**	学校と地域（麻機地区を含む静岡市、児童生徒の居住地区）間で、地域を生かした関わり（間接的な交流を含む）を実践できた職員 90%以上	学校と地域（麻機地区を含む静岡市、児童生徒の居住地区）間で、地域を生かした関わり（間接的な交流を含む）を実践できた職員 97.1%	A	今年度の取組を継続するとともに、来年度は交流及び共同学習の目的について児童生徒を主語として捉えることができるような取組を行う。
	社会との「つながり合い」と、生涯学習につながる教育活動の充実	本の読み聞かせ等の読書活動、外部団体を招いての鑑賞教室や各種作品展を通して社会と関わることができたといえる職員 90%以上	本の読み聞かせ等の読書活動、外部団体を招いての鑑賞教室や各種作品展を通して社会と関わることができたといえる職員 98.3%	A	地域等の様々な方たちとふれあう機会の設定が高い達成率につながった。来年度も同様の取組を継続する。